

支部だより

北海道支部

情報発信型国際シンポジウム CRC International Symposium in Aachen on “Cross-Coupling & Organometallics”を開催

2005年10月12日にアーヘン工科大学（ドイツ）において北海道大学触媒化学研究センター、及び日本化学会北海道支部の共催により、表題の国際シンポジウムを開催しました。本国際シンポジウムは、「日本の誇る先駆的研究成果を“日本の研究機関の主導で”海外において情報発信する」という今までにないコンセプトの基で企画されました。

従来の日本の国立大学が開催する国際シンポジウムは国内で開催されるため、講演者＝外国人、聴衆＝日本人という図式でした。これは日本人の成果の発信にはなっていません。そこで、新しく講演者＝日本人、聴衆＝外国人という図式の情報発信型の国際シンポジウムの開催が必要であると考え、海外で開催する今回

のシンポジウムを企画しました。

今回のシンポジウムでは、『クロスカップリング反応』を主テーマとしました。クロスカップリング反応は、非常に有用な炭素-炭素結合生成反応として工業的にも重要性を増しています。特に、薄型液晶テレビの液晶がこのクロスカップリングを用いて合成されていることは周知のとおりであり、私たちの生活に大きく貢献している分野で、ノーベル賞の対象となっている分野であるといわれています。特筆すべきは、この分野における発見・改良の過程において多くの日本人研究者がかかわっていることです。本シンポジウムでは、この分野で先駆的な役割を果たされた4名の日本人研究者（鈴木章 北海道大学名誉教授、根岸英一 パ

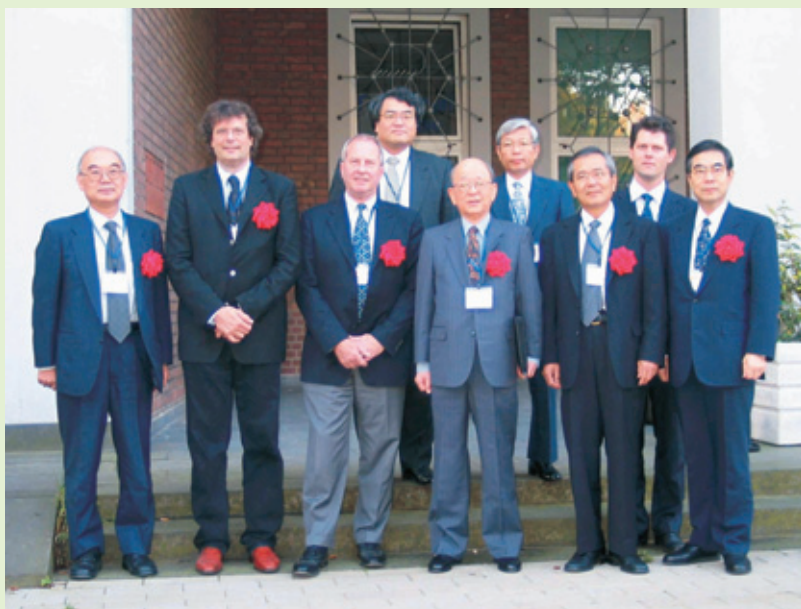
デュー大学（米国）教授、玉尾皓平 理研システム長、檜山為次郎 京都大学教授）に加え、ドイツの大学からの3名（Prof. A. de Meijere（Göttingen）、Prof. P. Knochel（München）、Prof. M. Beller（Rostock））を講師として招待しました。

シンポジウムに先立ち11日夜にはアーヘン市内のレストランにおいて“Welcome Dinner”が催され、多くの参加者が深夜まで交流を深めました。12日朝9時からのシンポジウムにおいては、250名を超える参加者を得て、活発な議論が展開されました。どの講演に対しても非常に多くの質問が出て予定時間を大幅にオーバーとなりましたが、ノーベル賞が期待されている研究者のハイレベルの講演により多くの参加者からも大変好評で、盛況のうちに終了となりました。

本シンポジウムには、宮下正昭（平成16年度日本化学会北海道支部長）、高橋保（北海道大学触媒化学研究センター長）に加え、9名の北海道大学の教員、大学院生、事務部及び技術部職員がアーヘンにおいて会議の運営にあたりました。

このような国際シンポジウムは初めての試みでしたが、大変好評で「次回はいつ、どこで開催されるのか？」というありがたいご意見を多数いただいたことを最後に申し添えます。

（平成16年度 日本化学会北海道支部長 宮下正昭、北海道大学触媒化学研究センター長 高橋 保）



©2006 The Chemical Society of Japan